

「平成29年度市長とコミわかとの懇談会」が開催されました

暑い盛りの8月21日(月)、長野市役所市長応接室において市長とコミわか役員との懇談会が行われました。長野市側からは加藤市長、企画政策部長、地域・市民生活部長を始め、関係各課課長などの職員が、コミわか側からは正副会長6名に、区長部副部長2名、公民館長、事務局長を加えた10名が出席しました。

内容は、以下の通りです。

1. 「若槻コミュニティセンターの建て替え(増築)」

＜質問者；糟谷会長＞

- ・当地区では20年近く前からや増改築の要望をしているが、要望が実現していない
- ・現在のコミュニティセンターは体育館が併設されており、公民館として使える面積が少なく、公民館活動に大きな支障を来している
- ・事務室や会議室等の多くが2階にある一方でトイレが2階にないなど、高齢者や障がいのある方にとって、大変使いづらい

◎市側からの説明

＜回答者；家庭・地域学びの課 広田課長＞

- ・市立公民館の基準面積1000㎡に対して若槻公民館は1094㎡あり、増築は難しい
- ・公民館の平均室数は5.1に対して若槻は5.0と平均的である、現状のままで上手に利用していただきたい
- ・使い勝手の悪さについてはいろいろと検討してきたが、いずれも改善は困難である

2. 「若槻いこいの家、北部市民プールの老朽化への対応」

＜質問者；望月福祉健康部長＞

- ・「若槻いこいの家」は近隣の地区からの利用者も多く経営も改善しており、「北部市民プール」も周辺の世帯数が増加し需要が高まっているので、両施設の存続を望む
- ・施設の存廃を決める際には、十分な住民への説明と合意形成を図るとともに、当面の利用に際しては、施設の十分な安全対策をとること

◎市側からの説明

＜回答者；公共施設マネジメント推進課 望月課長他＞

- ・公共施設について何かを決定する前には、住民によるワークショップを開催する
- ・「若槻いこいの家」は土砂崩落の危険性のある施設であり廃止の方向にあるが、地域の皆様に愛されている施設でもあるので存続させることも課題となる
- ・市民プールの利用者が減少している中で施設の統廃合は避けられないが、個々の施設については今後検討していく

3. 「通学路・生活道路の除雪対応」

＜質問者；松田生活安全部長＞

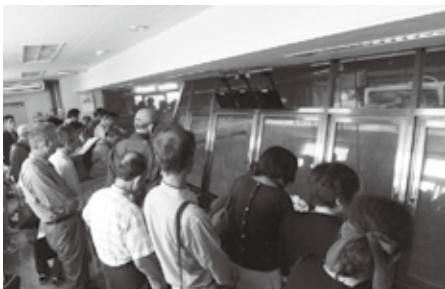
- ・高齢者や子どもたちが利用する歩道や通学路の除雪は近隣の住民で行ってきたが、高齢化と通勤者が増えたことにより人手が確保できないので、市で除雪することはできないか

◎市側からの説明

＜回答者；維持課 畑課長＞

- ・市として、通勤通学路や都市計画道路のうち歩行者の多い歩道の除雪は業者委託しているが手一杯の状態である。生活道路についてはこれまで通り地域で除雪を願いたい

全体として、市側からの説明は、地域の要望を実現させるためというよりも、要望を断念させるための説明であったように感じられ、実りの少ない懇談会でした。



環境施設見学研修会が行われました

9月11日(月)に環境施設見学研修会が開催され、地区内から34名の参加があり、「長野市清掃センター」と「クリーンピア千曲」を見学しました。

「長野市清掃センター」は焼却施設の点検中で、焼却炉の運転が停止していたため、可燃ゴミとプラスチックゴミの選別工程を見学しました。

可燃ゴミの中の異物や燃えないものの混入、プラスチックゴミの中のガラスの混入を目の当たりにし、ゴミを出す時は分別をしっかりとってほしいと改めて感じました。

「クリーンピア千曲」では、水をきれいにする微生物がいる反応タンクや、広大な沈殿池を見学し、施設職員から最初は汚れていた水がきれいになり、千曲川へ放流されているといった話を聞くことが出来ました。

今回の研修会を通じて、下水道を使用する際は、天ぷら油や台所のゴミ、水洗トイレが詰まるものは流さない等の気配りと節水に心掛けると共に、研修会で学んだことを、今後の環境美化活動に活かしていきたいと思えます。